

●ASEAN スマートシティ・ネットワーク草案（コンセプトノート）

本コンセプトノートは、ASEAN スマートシティ・ネットワーク（ASCN）構築のためのシンガポールの提案を示したものである。

1. 背景

- ASEAN の成長はこれまでも都市圏がけん引し、今後も都市圏がけん引することになる。2030年までに都市圏の人口は9,000万人増加すると予想され、20万～200万人の人口を抱える中堅都市が地域の成長の4割に貢献する見通しだ。ただ、急激な都市化は、混雑や貧困、所得格差、治安などの課題をもたらす。そうした課題の解決に、先端技術やデジタル技術のソリューションを活用することで、サービスの質とアクセスを向上し、都市だけでなく郊外の市民の生活を改善できる。
- ASEAN 加盟国はこうしたトレンドを認識し、既に一部地域をスマートシティとして開発するプロジェクトを実行している。シンガポールはASCNの構築で、加盟国がスマートシティ開発で互いに協力し、ASEAN コミュニティづくりに貢献することを提案する。

2. 目標

- ASCN は、ASEAN 加盟各国の首都を含むそれぞれ最大3都市が協力するためのプラットフォームとなる。ASCN がこの先、成熟化すれば、参加都市の拡大の余地がある。最終的に目指すことは、テクノロジーを活用してASEANの市民の生活を改善することにある。
- ASCN の目標は以下の3つ；
 - (1) スマートシティ開発における実験都市間の協力促進：
各実験都市の、2018～2025年のアクションプランと、ASEAN 特有のスマートシティ開発のための枠組みを策定。
 - (2) 民間と協力しての有望なプロジェクトの共同開発：
実験都市は、商業的に成果が得られるプロジェクトを実現するため、民間ソリューション・プロバイダーと協力する。
 - (3) 域外のパートナーからの資金調達：
実験都市は自発的に特定の域外パートナーと、相互に利益のあるパートナーシップを結び、スマートシティ開発を推進する。世界銀行やアジア開発銀行（ADB）、アジアインフラ投資銀行（AIIB）、グローバル・インフラ・ハブ（GIH）など国際金融機関にも協力を要請する。
- スマートシティ開発は、輸送、水質、エネルギー、ヘルスケア、教育、公共サービス、データと情報通信技術（ICT）など多くの分野にまたがるものだ。各都市の優先分野はそれぞれ異なるため、ASCN は各都市がそれぞれのニーズに応じて優先する分野を選択することを認める。

3. 主要要素

- (1) スマートシティの都市別アクションプラン（2018～2025年）
 - 2018年5月にシンガポールで開催予定の5日間のスマートシティ統治ワークショップ（SCGW）で、各実験都市はそれぞれ暫定的なアクションプランを作成する。
 - 同プランには、2018～2025年に実行予定の特定プロジェクトと行動計画、また

優先分野が盛り込まれる。

- 同プランは、各都市の既存のスマートで持続可能な都市化のためのブループリントまたは、アクションプランに基くもので作成されてもよい。

- (2) **ASEAN スマートシティの枠組み**
 - 各実験都市とその国の代表は共同で、**ASEAN スマートシティ枠組み**を策定する。同枠組みには、①**ASEAN** のスマートシティの定義、②原則、③成果、が盛り込まれる。
 - 同枠組みは、既存の国家開発計画を阻害するものではない。**ASCN** の各実験都市のスマートシティ開発の指針となる文書となる。
 - 同枠組みの最初のドラフトはシンガポールが準備し、**2018年3月**に **ASEAN** 加盟国に回覧。**2018年5月**のスマートシティ統治ワークショップ (**SCGW**)で、改訂した枠組み案について話し合い、**7月**の第**1回 ASCN** 年次会合で承認。**11月**の第**33回 ASEAN** 首脳会議で採択を目指す。

- (3) **ASEAN スマートシティ・ネットワークの年次会合**
 - シンガポールは**2018年7月**、同国で開催の世界都市サミットと並行して、全ての実験都市とその国家代表を招いて、第**1回**年次会合を開催する。
 - **ASEAN** 加盟国が正式に、**ASEAN** スマートシティの枠組みを承認後、各実験都市はアクションプランを共有し、**ASEAN** 域内・域外のソリューション・プロバイダーと商業的に実現可能なプロジェクトをみつける。
 - **2018年**以降は、**ASCN** は毎年、会合を開き、各都市のアクションプランの進捗状況を話し合う。また、民間ソリューション・プロバイダーとの新規プロジェクトを開始し、**ASEAN** 域外パートナーとの新たな機会を探る。
 - 同年次会合は **ASEAN** 議長国が主催。**ASEAN** 事務局は会合からの成果について年次報告を作成する。

- (4) **ペアリング・プログラム**
 - **ASCN** の実験都市は、任意で域外パートナーと組み、スマートシティ開発の協力のための相互利益のあるパートナーシップを結ぶ。
 - これらパートナーシップは、双方が合意した商業的に実現可能なプロジェクトの実行を優先する。
 - シンガポールは **ASEAN** 議長国として、**2018年7月**の第**1回**年次会合と並行して、実験都市と域外パートナーとのペアリングのマッチメイキングを開催する。
 - **ASCN** の実験都市と域外パートナーとのペアリングの最終リストを作成。**2018年8月**の第**51回 ASEAN** 外相会議と関連会合で、発表する。

4. 代表

ASEAN 加盟国はそれぞれ、**ASCN** に参加する最大**3**都市と、以下の代表を指名する。それぞれの代表の役割は以下の通り；

- (1) 最高スマートシティ責任者（各実験都市当たり**1**人）

- スマートシティ統治ワークショップ (SCGW)に参加して、各都市のアクションプランを作成し、ASEAN スマートシティ枠組みを話し合う。
- ASCN の年次会合に参加する。

(2) 国家代表

- スマートシティ統治ワークショップ (SCGW)に参加し、各都市がアクションプランを作成するのを指導し、ASEAN スマートシティ枠組みを話し合う。
- ASEAN 議長国の国家代表は、ASCN の議長国も兼任する。

5. スマートシティ実証都市

同ネットワークに参加する実験都市は、インドネシアのジャカルタ、バニユワンギとマカッサル、カンボジアのプノンペン、バットアンバンとシェムリアップ、シンガポール、タイのバンコク、チョンブリーとプーケット、フィリピンのマニラ、セブとダバオ、ブルネイのバンダル・スリ・ブガワン、ベトナムのホーチミン、ハノイ、ダナン、マレーシアのクアラルンプール、ジョホールバル、クチンとコタキナバル、ミャンマーのヤンゴン、ネピドーとマンダレー、ラオスのビエンチャン、ルアンパバーンの ASEAN 域内の 26 都市。

6. 予定

- | | |
|-----------|---|
| 2018年 5月 | シンガポールでスマートシティ統治ワークショップ (SCGW、5日間) |
| 2018年 7月 | ASCN の第1回年次会合、域外パートナーとのマッチメイキング |
| 2018年 8月 | 第51回 ASEAN 外相会議と関連会合で、ペアリング・プログラムを公式発表 |
| 2018年 10月 | 合同諮問会議 (JCM、注) <ul style="list-style-type: none">○ 各都市のアクションプランの確認○ ASCN 実験都市の域外パートナーのリストの確認○ ASEAN スマートシティ枠組みを承認 |
| 2018年 11月 | ASEAN 首脳、ASCN 構築の正式承認 |

(注) ASCN の代表 (その年の ASEAN 議長国の国家代表) が ASCN の年次会合後、JCM に報告。その後、JCM は、ASEAN 調整評議会 (ACC) と ASEAN 首脳会議に報告される。

以上